



コープ共済プラザ

選評

明治神宮の緑にほど近い明治通り沿いにコープ共済プラザは建つ。深く張り出した床スラブは鎖状の簾で縦に繋がれ、そこに緑の植栽が這い登って建物の顔を作っているが、奥の内部空間は外からは伺い知れない。一方、建物内に入ると、コンクリート打ち放しのソリッドな天井と「肌で」感じる温湿環境がまず強い印象を与える。そして、深い庇の下で育った豊かな植栽を通して眺める外の景色は、自分が今、大都会の中心にいることを忘れさせてくれる。

二〇一一年の東日本大震災では

天井の崩落による人命の損失や事業継続への障害が大きな問題となった。この建物では従来の床スラブと天井の位置関係を「えいや」とばかりに逆転させて吊り天井と吊り設備類を無くし、逆スラブ中の配管に冷温水を流して放射空調を行うとともに、スラブ上のFCU設備を利用して床よりの染み出し空調で館内環境の保持を行っている。熱源は屋上導管で収集した太陽熱とコージェネ廃熱を利用し、地中熱や井水で外気を調温し乾燥剤で除湿するデシカント空調機を組み合わせて、究極の省エネ性と災害時の事業継続性を確保している。各階外周には建物の整形性と敷地のゆがみを補完する深い逆スラブ

の上に梁せい分の土を盛り上げ、今までの緑化建物では考えられないほどの本格的な植栽で各層の執務空間を取り囲んでいる。これらの「庭」には扉を開けていつでも出られるようになっていいる。照明はデスク付きまたは床置きを中心に、天井スラブのレールを利用してダウンライトを併用したタスク&アンビエント照明を採用し、電力を節約。湿湿度、降雨、風速条件等により自然換気の有効性を判断し自動開閉する窓を各階五カ所に設けている。

構造上は本体をSRC構造とし地下機械室下には免震層を設けた基礎免震構造を採用している。可動部を敷地内に収めるために一階



近隣も楽しむファサード



街と緑になじむ外壁



街路樹のようなテナントオフィス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

< 2018年 第59回 BCS賞受賞作品 > 太田市美術館・図書館 高知県立高知城歴史博物館 **コープ共済プラザ** 新豊洲 Brillia ランニングスタジアム すみだ北斎美術館 洗足学園音楽大学 Silvermountain & Redcliff (e-cube) 空の森クリニック 高崎アリーナ 多治見市火葬場 華立やすらぎの杜 立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所 デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」日本無線先端技術センター パナソニック スタジアム 吹田 羽田クロノゲート 益子町地域振興拠点施設「道の駅まじこ」【特別賞】名駅一丁目1番計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)

建築主より

全国900万人のコープ共済加入者のための保障事業の拠点=コープ共済プラザ

コープ共済連は、2011年の東日本大震災で被災し、施設復旧に数カ月を要しました。日本生協連理事会は北参道にオフィス移設を決め、2015年5月から事業をスタートしました。BCP対策では、免震構造、72時間稼働の自家発電機設置、非常用対策水槽の設置等を行いました。省CO₂対策では、自然冷媒を利用した吸着式冷凍機、太陽熱給湯器とコージェネ廃熱を組み合わせた熱源システム、グリー

ンスクリーン等にて、従来比でCO₂排出量は半分以上になりました。外観も緑に覆われ印象的な建物になっています。2018年、「コープSDGs行動宣言」を生協は採択。持続可能な社会の実現に向けての行動に取り組んでまいります。こうしたなか、コープ共済プラザがサステナブルな建築物として評価されて大変うれしく思います。関係者の皆様に感謝申し上げます。



日本生活協同組合連合会
常務執行役員
笹川 博子
Hiroko Sasagawa



>> コープ共済プラザ



タスク・アンビエント照明は室内の照明は時間帯によってやわらかに変化させ、執務者にとっての安全と作業のしやすさを担保する。



株式会社日建設計
設計部
部長
羽鳥達也
Tatsuya Hatori

震災による価値観の変化と、人と環境への想いによって生まれたワークプレイス

コープ共済プラザは、吊り天井がなく窓辺が通路になるレイアウト等、通常のオフィスとは大幅に異なる計画です。それは天井が落ち、猛暑でも窓が開かないオフィスがニュースにもなった、東日本大震災での実体験を教訓として、本当に安心して働ける場を作りたい、地球や周辺環境に配慮したいという日本生協連の皆様の想いがあったからこそ提案が受け入れられ、実現することができました。

施工者の(株)フジタの皆様もこうした想いに応え、期待以上の高品質な施工を完遂してくださいました。このオフィスと同規模のオフィスは東京23区だけでも約8,200棟、約2,000万㎡にも上ります。このような考え方のオフィスが増えれば都市の環境も変わっていくのではないかと期待しています。今回の受賞がそうした変化を促す一助になればと願っています。

施工者より

施工難度の高さはチームワークとコミュニケーションでクリア

この度のBCS賞受賞に際して、工事着工から竣工までの長きにわたり、振動や騒音等で大変ご迷惑をお掛けしました町内会や近隣の皆様方のご理解とご協力に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。複雑な形状を持ち意匠性が高い「コープ共済プラザ」は施工難度も非常に高い工事でした。プロジェクト関係者の皆様のチームワークと良好なコミュニケーションによりお客様

や設計者様の「こうしたいという想い」を具体的に受け取り、我々と協働してくれた専門協力会社や職人の皆さん、施工関係者の総力で「形」にすることが出来たと思います。建築技術者としてこの度のBCS賞受賞の一翼を担えたこと、またそれが弊社と所縁のある千駄ヶ谷の地であったことをとても嬉しく誇りに思います。プロジェクト関係者の皆様、本当にありがとうございました。

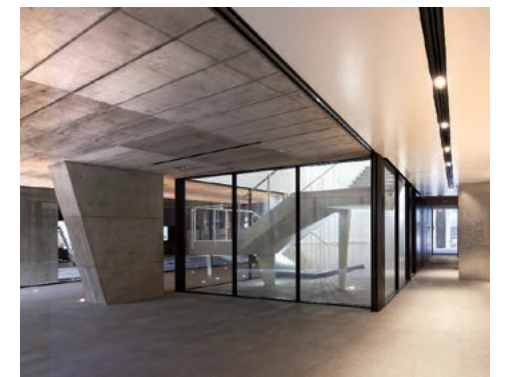


株式会社フジタ
横浜支店 建築工事部
建築工事部長
(当時東京支店作業所長)
浜田 剛
Tsuyoshi Hamada

地下の外周部を斜め柱とし、これらを一階のピロティ空間のデザイン要素として利用している。外周を除くと柱は中央部の一列のみで、屋上のヘビーデューティな設備や外周緑化の重量増にもかかわらず、免震構造のメリットで広い自由空間を確保している。一方、免震構造に伴う地下鉄トンネル近くの深いピット工事のみならず、各階で逆スラブの床をそのまま仕上げとしたことで、施工に対する難易度を大きく高めたことは想像に難くない。施工者はこれらの要求を黙々とこなし、高い水準で設計者の要求に応えている。

そして、これら一連の大胆な提案は、執務空間の耐震性とBCP対策、そしてCO₂削減の高い目標を掲げる建築主・日本生活協同組合連合会の深い理解と協力があって実現にこぎつけたものに他ならない。最先端のパッシブ設備技術を総動員し本格的なバルコニーの緑化を併せ持つこの環境建築は周囲の建物にも優しい表情を提供している。今後の維持管理を含めて本建物の建設を決断した建築主にも深い敬意を表したい。

【選考委員】
竹内 徹・青木 茂・尾崎 勝



開放的な避難階段



RC天井と床下空調という逆転

計画概要

建築主：日本生活協同組合連合会

設計者：(株)日建設計

施工者：(株)フジタ

所在地：東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13
竣工日：2015年4月30日

敷地面積：1,556㎡
建築面積：1,216㎡
延床面積：8,652㎡

階数：地上8階、地下2階、塔屋1階
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造(免震構造)